

平成23年度 第5回 宮前区区民会議

- 1 日 時 平成23年8月2日（火）午後6時
- 2 場 所 宮前区役所 大会議室
- 3 出席者
 - (1)委 員 山下委員長、恒川副委員長、直本副委員長、浦野委員、大村委員、河井委員、久保委員、佐藤委員、高橋委員、豊島委員、中村委員、平井委員、藤田委員、吉田委員、持田委員
 - (2)参 与 竹田参与
 - (3)事務局
- 4 次 第
 - 1 開会
 - 2 講演
 - (1)「ZAMA坂道マラソン」 座間青年会議所直前理事長 濱野真一氏
 - (2)質疑応答
 - 3 議事
 - (1)専門部会からの報告
 - (2)意見交換
 - 4 その他
- 5 傍聴者数 14人

午後6時開会

司会（板橋） それでは、定刻となりましたので、これより第5回宮前区区民会議を開催したいと思います。

本日の進行を務めます宮前区役所副区長の板橋でございます。よろしくお願ひいたします。恐縮でございますが、ここで着席をして進行させていただきます。

それでは、会議開催に先立ちまして、事務連絡をさせていただきます。

本日の会議開催に当たりまして、この会議は川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づきまして公開とさせていただいております。したがって、傍聴、取材が可能となっておりますので、ご了承いただきたいと思います。また、会議録の作成に当たりまして速記者に同席をいただいておりますので、よろしくお願ひいたします。そして、本日発言のございました方々につきましては、後日確認をお願いしたいと存じますので、そちらのほうもよろしくお願ひしたいと思います。また、傍聴の方々につきましては、入場時にお配りしてございます遵守事項をお守りいただくようお願いするとともに、本日の会議に関するアンケート用紙をお帰りの際には提出いただきたいと思います。

次に、本日の委員、参与の方々の出欠状況等について報告をいたします。区民会議委員につきましては、谷山委員からご欠席のご連絡をいただいております。また、参与につきましては、飯田参与、石田参与、織田参与、持田参与、矢澤参与、山田参与から事前にご欠席のご連絡をいただいております。よろしくお願いたします。今、竹田参与にご出席をいただいておりますのでご紹介いたします。また後ほどご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

続きまして、本日皆様方のお手元に配付してございます資料の確認をさせていただきますので、お目通しいただきたいと思っております。

まず、本日の会議次第がございます。

続きまして、別紙1といたしまして座席表がございます。

次に、別紙2といたしまして名簿がございます。

次に、議事資料になります。まず資料1でございますが、地域らしさを活かした取り組み～ZAMA坂道マラソン～でございます。

資料2につきましては、第3期宮前区区民会議のコンセプトでございます。

資料3につきましては、坂道を活かしたまちづくりでございます。

資料4につきましては、コミュニティへの参加を促す冊子でございます。

資料5でございますが、今後のスケジュールになっております。

続きまして、参考資料といたしまして幾つかつけさせていただきますので、そちらもご確認をお願いいたします。

参考1でございますが、第3期宮前区区民会議中間報告書でございます。

参考2でございますが、活力づくり部会関連資料でございます。

参考3でございますが、地参知笑部会関連資料でございます。

参考4でございますが、宮前区冒険遊び場のチラシが2枚入っております。

参考5でございますが、みやまえカルタ制作事業の資料でございます。

その後、参考6、平成22年度宮前区協働推進事業評価一覧表というものがついております。

以上、大分多くの資料でございますが、不足、落丁等はございませんでしょうか。ございましたら、お手を挙げていただきたいと思うのですが、よろしいですか。

1 開 会

司会（板橋） それでは、準備が整ったということでございまして、これより第3期宮前区区民会議第5回全体会を開催いたします。

初めに、開催に当たりまして、区民会議の事務局を代表し、和田区長よりごあいさつをいただきます。よろしくお願いたします。

区長 皆さん、こんばんは。区長の和田でございます。本日は大変お忙しい中、区民会議全体会にお集まりいただきまして大変ありがとうございます。

この第3期も、昨年5月にスタートいたしましたが、この全体会も本日で第5回目を迎えることになりました。ただ、この間、東日本大震災の影響で、フォーラム、さらには会議中止なり変更せざるを得ないといったような状況もございましたが、両部会におきましても精力的にご議論いただきまして、提案に向けて大分形が明確になってきたのかなと思っております。今日は、両部会からこの間の活動等について報告をいただきまして、活発な議論をお願いし、提案につなげていただければと思っております。

そして本日は、宮前区と同じように、坂道を地域の資源にしようということで、先進的な取り組みをいただいております座間市の座間青年会議所の濱野真一直前理事長においでいただきまして、その取り組みについて伺うことにしておりますので、ぜひ皆さんも参考にさせていただきたいと思っております。今日は青年会議所から9名の皆さんにおいでいただきまして、これからも、今日を契機として坂道をプラスに活用していこうということでは、宮前区と座間市が今後とも連携して取り組みを進めていきたいと思いますということでお話をさせていただきましたので、ぜひ提案から実現に向けて、引き続き座間青年会議所の皆さんにご協力をお願いできればと思っておりますのでございます。

区民会議から提案いただいた事項につきましては、その実現に向けて区としても全力で取り組みを進めてまいりたいと思っておりますし、区民の皆さんと地域をよりよくするために取り組みを進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

ぜひ今日の会議の中で活発にご議論いただくことをお願いしまして、簡単ですが、あいさつとさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

司会（板橋） それでは、これより進行は山下委員長をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

2 講演

山下委員長 それでは、これからの進行は私のほうでやらさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

本日は、議事の前に、ZAMA坂道マラソンについての講演がございます。宮前区の区民会議では、冊子をつくるだけではなくて、区民の参加につながるイベントなどの仕掛けを検討しております。既に座間市では、昨年と今年の6月に坂道マラソン大会を開催しております。その取り組み事例を今後の私ども区民会議での検討に役立た

せていただきたいと思います。

では、座間青年会議所直前理事長の濱野様、よろしく願いいたします。

(1) 「ZAMA坂道マラソン」

濱野直前理事長 皆さん、こんばんは。ただいまご紹介いただきました、私、座間青年会議所、昨年、2010年度理事長をさせていただきました濱野と申します。本日は、和田宮前区長様を初めとする行政の皆様方、そして、山下委員長を初めとする区民会議の皆様方、お招きいただきまして誠にありがとうございます。私のような本当に若輩者が、皆様方、諸先輩方の前で話すのは甚だ恐縮ではございますが、これから30分、そして質疑応答を入れて15分を合わせた時間の中で、精いっぱいお話をさせていただきますと思っています。

まず、青年会議所の紹介でございます。青年会議所は20歳から40歳までの団体でございます。私も御年40を迎えて今年で卒業するわけでございますけれども、川崎にも当然川崎青年会議所があって、川崎市を盛り上げようということで精力的に頑張っている団体がございます。各行政区の中で青年会議所があるわけですが、青年会議所というのはどういう趣旨で集まっているかという、明るい豊かなまちづくりをするために、20歳から40歳の若いメンバーが集まっている団体です。そこで、私が2010年度理事長をやらせてもらうに当たって、明るい豊かなまちづくりをするにはどうしたらいいのかと考えたときに、やはり地域が元気でなければいけない。であるならば、地域にある地域資源を生かした事業展開を起こすのが、まちづくりとしてまちが元気になる、活性化する一番の方法なんじゃないかと私は思ったんですね。当然、新しい文化をつくるというのも1つの方法かもしれませんが、新しいものをつくるというのは、逆に抵抗感があるというか、特にその地域に根づいた方というか、諸先輩方からはなかなかご理解を得づらい方法だなと私は思ったんです。であるならば、地域にあるもの、歴史的、文化的にもあるもの、そして地域的に自然にあるものを使った切り口でやったほうが、当然新しく住んだ方もリアルにわかりやすいし、そして、ご年配の方も、そういう切り口でやるんだなということで、まずインフラ的な意味でも非常に理解しやすいのかなということで、地域資源を生かした地域活性化をしようというのが、私の最初の根本的な考えでございました。

座間は何があるかという、座間キャンプがございます。座間キャンプは本当に全国的に有名な場所でございます。今や米軍の極東の司令部が来ているということで、我々からしたら本当にマイナスの、戦争に負けての遺産でございます。これを何とかして生かしていきたい、それこそマイナスの資産である座間キャンプを何とかいいほうに使っていききたい、そういう私の考えがまず1点ありました。あとは、座間の花はヒマワリということで、ヒマワリを使った何か事業展開をしよう。いろいろと

考えたんですけれども、すべて総花的にできないということで、この2点にある程度絞って地域を活性化していこうという切り口でまず始めました。

そして、その座間キャンプを何とか身近なキャンプにしたいということで、その切り口を担当したのが、今日オブザーブに来ている当時の丸山委員長にお願いしたわけでございます。2009年の年末から2010年の年明けにかけて、座間キャンプの司令部、そして陸上自衛隊でございます軍曹の方々とコミュニケーションをとりながら友好関係を保って、最終的には座間キャンプの中で何かできないかと。丸山委員長はマラソンにある程度造詣の深いメンバーだったものですから、座間キャンプでマラソン大会ができるといいなというのが、最初のおぼろげな私のイメージだったんです。

ただ、友好関係を結びながらも、最終的に基地というのは、しょせん軍事基地なので、余り不特定多数の人が入ってくるのは司令官からしたらノーなんですね。ですから、なかなかキャンプ内でのそういった大きなイベントができないということで、本当に悩みに悩んで、特に丸山君には大変ご足労をかけながら考えていただいたのが、座間にはマイナスの資産に坂道があるじゃないかというのが、紆余曲折あってたどり着いたルーツでございました。

今日も、インターから降りてこちらに赴くに当たって、本当に長い坂を登り切ってこの宮前区役所がございまして、また、今日こうやってぱっと外を見ても、丘陵地帯があって、本当に坂が多いまちなんだなというのを、私自身も目で体で堪能したわけでございます。

この宮前区においては座間と明らかに違うところが1つあって、宮前区さんをちょっと調べさせてもらったんですけれども、面積に関しては、座間と宮前区はほぼ一緒なんです。宮前区は面積は18.60平方キロメートル、座間は17.58平方キロメートルということで、まちの大きさ的にははっきり言ってほぼ同じ、そして坂道が多いというのも全く同じなんですけれども、明らかに違うところは人口、人口密度が明らかに違います。宮前区は、人口が今でいうと約22万人、座間は13万人なので、倍ぐらい宮前区は区民の方がいらっしゃる。東京だとか川崎、横浜のベッドタウンとして栄えたまちということで、逆にベッドタウンだからこそ、昼間、地域に働き盛りの世代の方がなかなか根づかないということで、そこら辺で多分区民会議の皆様方はいろいろと知恵を絞って、何か宮前区に愛郷心、そして地域に誇れるようなしつらえを考えようじゃないかというのが、会の趣旨なんじゃないかと思えます。

ただ、明らかに座間と違って人口が多いということは、逆にその地域の方々の琴線に触れるようなことをしたときのパワーというのは、座間の倍のパワーが出てくるんじゃないか、要は埋蔵資源がそこにたくさんあるんじゃないかと思うんです。そういった意味では、本当に宮前区のマンパワーがこれから醸成されるような、そんな実りある会議をしていただくために、私も何かいいお知恵を出せればと思っております。

それでは、早速中身に入っていきたいと思います。まず、お手元の資料の中で、資料1として、表紙が「座間青年会議所 地域らしさを活かした取り組み～ZAMA坂道マラソン～」の冊子を使いながら簡単に説明をさせていただきたいと思っております。

まず、ページをめくっていただきますと、2ページ、3ページにわたって、ZAMA坂道マラソンのコース図がかいてあります。坂道マラソンというぐらいですから、僕もプレで1.8キロ走ったんですけれども、はっきり言って1.8キロでもきついです。ふだん走っていない人間は、1.8キロでも完走するのが精いっぱいぐらい。なぜかという、坂が本当に多いところを走って、もとの位置に戻るわけですから、下りたら上がる、上がったら下りる、この繰り返しなんです。距離的には6キロ、3キロ、1.8キロと、マラソンランナーからしたら、実際マラソンをストイックにやる方からしたらちょっと物足りないかもしれませんが、地域資源を皆さんに堪能していただきたい、ちょっと敷居を下げた距離を短くして、だれでも参加できるような、市民ランナー向けというよりは、できれば走りながら宮前区のよさ、そして座間のよさを感じてもらえるようなしつらえがあるのが1つ。

もう1つは、余り長くしてしまうと、当然、今度は交通の規制もかけなければいけないということで、警察の方々、そして地域住民の方々のご理解がなかなか得づらいというリスクを背負ってしまうということで、開催する芹沢公園のキャパを考えたときには、これぐらいの距離が一番妥当なのかなと。第1回を昨年6月6日にやって、本年は震災の関係でちょっと延びましたけれども、同じく第2回を6月上旬にさせてもらったときも、同じような距離でやらせていただいた経緯がございます。そのような趣旨で、距離はそういう距離になっております。

それでは、4ページをお開きください。第1回ZAMA坂道マラソンの大会要項でございます。これはあくまで昨年度の資料に基づいて今日のご説明したいと思っております。

ここで一番言いたいところ、ちょっと重複しますが、4ページの下から3つ目のブロックの趣旨、ここだと思います。これは本当に座間と宮前区が一致するところかなと思います。坂のある風景を有効利用する、余り好まれない坂、この資源を有効利用しましょうと。ましてや、坂というのは人生において好不調を表現するのによく形容されるものでございます。そういった意味でも、趣旨をどんどん膨らませていって、どんどん皆さんのご理解を得て、敷居を低くして参加していただけるような、そんな趣旨にまとめられたというか、したためさせていただいている文章でございます。

主催は座間青年会議所で、後援はいろんな方々、協力、協賛いろいろといただいているんですけれども、一番最初にやるわけですから、非常にいろんな苦勞がございま

した。何が苦勞したかという、区民会議の流れというのは、ここで醸成された意見、審議結果を区に投げかけて、それでまたいろんな意見が醸成されると思うんですけども、我々は青年会議所で、単体の手弁当でやっている団体なので、そういった意味では、我々はこういうことをやりたいんだ、明るい豊かなまちづくりのために、地域を活性化するために坂道マラソンをやろうよということなので、いざコンセプトが決まって、じゃ、やりましょうとって根回ししたときには、まだ行政の方は市長を初め知らないんです。

ですから、行政の方のご理解を得るのが第一だったというのがまず1つの山でございました。幸いにも、座間の市長は遠藤市長で、我々青年会議所のOBで、理事長経験者でもございましたので、その点、我々の趣旨に、長としては賛同していただきました。ただ、実際にそのセクションで責任を持つ公園緑政課、先ほど私は芹沢公園と申し上げましたけれども、座間でいうと公園緑政課というのがあるんですけども、この公園の使用許可と、マラソンというスポーツ増進の切り口のスポーツ課というのがあるんです。スポーツ課に関しては、マラソンをやることに関しては、いいじゃないですかということだったんですけども、公園緑政課にいざ行くと、公園というのは一団体のために貸したらあかんと。せっかくの日曜日に一団体に貸して、ほかの人が遊びに来たら変な大会をやっているとすると、行政の立場からしたらなかなかうんと言えないんだというのが最初のお話で、公園緑政課の方々のご理解を得るのが非常に難をきわめたところでもございました。それはそれで大変だったんですけども、そこら辺は、我々若いメンバーの熱い思いと、遠藤市長の後押しも多分あったと思います。そういった中で、何とか使用許可をいただきながら、公園使用のゴーをいただいたところでございます。ですから、初めにやることに関しては、まず行政の公平性をかながみたときに、まず壁にぶち当たって苦勞した1点目でもございました。

あとは、何で広くフルマラソンとかハーフマラソンができないかというのは、当然坂道にも限界がありますから、フルマラソンにしたら坂道がなくなってしまうというところもありますけれども、とどのつまり、安全面ということで、警察の許可を得るためには、余り距離を長目にしない、そして余り人通りがないところを通ることによって警察の方々のメンツも保つということで、警察への道路使用許可の申請も慎重に行った次第でございます。

資料は若干飛びますけれども、7ページを見ていただいでよろしいでしょうか。右上に、第1回ZAMA坂道マラソン大会のコース上誘導員配置等案ということで、要は警備員を我々は置いたわけです。座間青年会議所の当時のメンバーは30名しかいなかったものですから、30名全員これに配置することはできないんです。ですから、一般のボランティアの方々のご協力を得てそれぞれ置いたんですけども、そこに至るまでに、その前に、警備のボランティアのプロというのは、交通安全協会というのが

座間にもありまして、この方々に坂道マラソンをやるからちょっとお願いしたいんですけども、始める二、三カ月前に丸山君とお願いしに行ったんですけども、もう、けんもほろろに、あかんと。そんな二、三カ月後にやるような何かの大会、そんなのにおれなんかは協力できん、そういうのは1年前から言ってくれなきゃ協力しないというのが第一声だったんです。

マラソン大会をやるに当たって募集をかけるお金が必要だというのはまず1つの山なんですけれども、いざ大会を開催するときには何が一番神経を使うかといったら、参加者の安全ですよ。せつかく何百名か集めてスタートしたときに、車にぶつかってしまったとか、住民の方からクレームをたくさん受けたというんだったら本末転倒な大会になってしまうので、警備に関しては本当に慎重に対処したかったんです。その初めの一步の交通安全協会の方々には、何のご協力も得ることがなく、話もなかなか聞いていただけなかったという非常にづらい思いをしたわけですけども、であるならば、じゃ、いいやと。交通安全協会はいいから、ボランティアを集めて、もしくは我々友人だとか、会社の従業員だとか、いろんな方法をとって、ここら辺は何とか対応してこの配置図を具現化できたところでございます。ですから、当初の絵どおりにとはなかなかいかなかったというのが、第1回の重たさというか、壁でございました。

あと大変だったのは、ノウハウが我々はないわけですね。青年会議所はいろいろな事業をやっていますが、別にマラソン団体でも陸上団体でもないの、タイムの表示だとか、そういった備品とかもないわけですから、そういったノウハウだとか備品関係を蓄積されている座間市陸上競技協会というのがありまして、この方に頼めばいろいろと、やるからにはこういうことに気をつけたほうがいいよとか、それだったら声をかけて何人か選手を入れようかと言ってくれるのかと思ったら、これもまただめと。おまえらみたいな素人団体にマラソンなんかできるものか。どこでやるのかと言うから、芹沢公園を1周して、まずいきなり急な坂道を下ってと言ったら、ああ、だめだめ、そんなことをやったら人が続出だよ、おまえらみたいな素人団体にマラソンなんかできっこない、だめだめ、協力なんかしないというのが陸上競技協会の方々の対応でございました。

でも、ここら辺は我々若い団体で、そういうことを言われるとますます頑張ってしまう団体なわけで、いつかこのじいさん連中を見返してやろうということなんです。だから、何か1回目をやることに関しては、必ず何か気に入らないという人がたくさんいるんです。でも、やるからにはそれに屈してはだめだと思います。理屈的には、筋は通さなければいけないと思いますから、通しながらも勝手にやられると嫌だと、だから筋を通して言う。でも、老婆心ながら必ず何か言いたくなるんですよ。これはこれで、意見としては間違っていないと思います。ただ、やっぱり協力しようという趣はなかなか感じられないわけで、そういった意味では非常に難をきわめたことば

かりでございました。

暗くなってしまうので苦労話の前段はこれぐらいにして、でも無事に開催はできたわけです。どのように開催したかという、マラソン大会は距離も短いですから、実際実施する時間帯はそんなに長くないんです。また本編に戻っていただいて、4ページの下、受け付けは8時45分から始まって、5ページの一番上、開会式が9時25分、競技開始は9時50分。それで3つのコースの選手たちが帰ってきて、閉会式が12時15分ごろということで、これは本当にタイムスケジュールどおりだったわけでございます。ですから、実施時間自体はそんなに長くなかったわけでございます。

そして、こちらの着目すべきところは、下の参加費、一般2000円、学生（小学校1年生～高校3年生）1000円というところで、コースを3つに分けてやったわけですがけれども、それぞれお金を取らせていただきました。何でお金を取ったかという、本来、我々座間青年会議所の事業というのは余りお金を取らないんです。自分たちの会費、年会費12万円と比較的高い会費なんですけれども、その会費の中で、市から補助金ももらわない、特定の団体からお金をもらわないで、自分たちの手弁当でやるから逆にしがらみがないんです。おまえらの団体にこれだけ金を出しているんだから、おれの言うことを聞けとか、この人に筋を通さなければいけないとか、そういうのがないので、自分たちの手弁当の事業費の中でやっていくから、ある意味ではフリーハンドなどころはあるんですけれども、さすがにこの第1回ZAMA坂道マラソンに関しては、自分たちの事業費だけではちょっと賄えないんじゃないかと。当然どれだけの参加者が来るかも読めなかったし、あとは思い出づくりとして、参加された方にはTシャツを配りたかったというのがあったので、そのTシャツだけでも1000円近くのお金がかかるわけで、そういった意味では、申しわけないんですけれども、学生さんで実費負担レベルの1000円、一般の方には2000円というお金を徴収させていただきました。

お金と言いましたけれども、実際どれぐらいの予算でできたのかというのは皆さん興味あるかもしれません。第1回の坂道マラソンでかかったお金は114万1000円です。その中で、このように一般の方が2000円、学生さん1000円のお金をちょうだいした金額が53万8000円で、要は使った金額の半分を皆様方の登録料に基づいて運営させていただきました。我々が突っ込んだ事業費は30万円ということで、この金額の中の約25%が真水のところです。あとは、広告料収入です。人が集まる大会でございますから、ゼッケンにも協賛企業の方々のお名前を入れさせてもらって走っていただくとか、こういった協賛企業ですよというパンフレットを参加者にお配りする。あとは、ポスターとかパンフレットに協賛、株式会社ほにゃらら、資料に載っていますけれども、日産自動車だとか、いろんなの方々のお名前を載せさせていただくことによってお金をちょうだいして運営した。あとは、お祝い金だとかメンバーのTシャツ、自分の

負担代が5%なので、114万1000円の中で、集めたお金の占有割合、登録料収入が50%で結構多かったわけです。それで広告料収入が20%。ですから、他人様から約7割をちょうだいしながら運営させていただきました。

何に使ったのかというのは、先ほど申し上げましたけれども、専ら参加記念品のTシャツ代が約53万円かかって、集めたお金の半分は参加記念品代に使わせていただきました。あとは広報費が、タウンニュースさんに出したり、その他もろもろ、ポスターの作成費とかが約32万円ということで、集めたお金の30%を使わせていただいたと。あとは細々としたリース代です。放送機材のリース代等々を諸経費として使わせていただいて、締めて114万1000円の予算の中で実行させていただいたわけです。

それで、どれだけの人数が集まったのかというのが、12ページをお開きください。これは報告書の一部でございまして、一番上に、第1回ZAMA坂道マラソンを振り返ってと書いてあります。これがてんまつでございます。

4の参加者・対象者ということで、参加者の欄、ちょっと細々とコース別、男女別で書いてありますけれども、結論から言うと、総計316名の方に当日参加していただきました。やり方としては、最初にこういうことをやるよといってファクスをいただいて、ファクスをいただいた方、もしくは電話をいただいた方にエントリー用紙を渡して、お金をいただいてから仮收受というか、そういう形でもう1回郵送して、当日それを持ってきてくださいと。当日それを持ってきてくれれば、ゼッケンとか参加記念品を配りますという流れなんです。実際、一般が208名、学生さんが122名ということで、330名の有料参加者。そして、当日お見えになったのが316名のこの内訳になっております。それが、先ほどの登録料53万8000円を構成しているメンバーでございます。

その予算の中で大会が繰り広げられたわけですが、そこで1つ我々が知恵を働かせたのが、12ページの真ん中から下のほうに、イラストとあります。イラスト応募者数58名、これは何かというと、実際坂道マラソンのTシャツをお配りするときのデザイン、第1回坂道マラソンにふさわしいデザインをみんな考えてよというのを広報したわけです、ファクスをちょうだいと。それで、58名の応募をいただいたんです。その中で一番我々のイメージに合うなというものを版下に出して、参加のTシャツに入れたわけです。

そうすると何がいいかというと、マラソンだ、マラソンだ、敷居を下げたとはいっても、やっぱりマラソンは嫌だなという市民の方もいるわけですね。運動系よりは文化系だという中で、この坂道マラソンを文化系の親世代、もしくはお子さんなんかの間接的に参加していただくことによって、この坂道マラソンに興味を持っていただくというのが趣旨としてあったんです。だから、マラソンに来ていただきたいがためのしつらえだけではなくて、小ネタではないですけども、こういったイラスト募集を

することによって坂道マラソンに間接的に参加していただく、そういったしつらえをさせていただきます。実際、最優秀の方のデザインは、そのままTシャツのデザインとして皆さんに着て走っていただくということで、選ばれた人のステータスもあるのかなということで、そのようなしつらえもさせていただきます。

もう1つ、また12ページの真ん中、スタッフのところです。先ほども申し上げましたけれども、うちの会員は当時30名です。我々は40歳までの団体なので、40歳を超えたらシニアクラブというのがあるんですけども、シニアクラブの諸先輩方から10名の人を出していただき、曹友会30名というのは、陸上自衛隊の方々の平たく言うと親睦会です。要は陸上自衛隊としては勝手に動けないので、陸上自衛隊の方の有志団体が地域に貢献したいと。要は、自衛隊の地位向上と、あとは、自衛隊の方も志が高くて、何とか僕の力を皆さんに還元したいという志の高い方々が30名集まっていたいて、ご協力いただきました。旧友会というのは、我々メンバーのお友達が構成している土木、建築とか、設備屋さん、そういった若手の経営者が集まった旧友会の方のご協力もいただき、そして特筆すべきところは一番右側の一般ボランティアの28。28という数字が大きいかわかりませんが、この一般ボランティアは、全く協賛も関係ない、座間青年会議所も全く関係ない、行政にも全く関係ないという、何も関係ない人が、このマラソン大会を見て、おれは走ることはできないけれども、地域を活性化する大会をやるんだったら何か協力できないかなというところに来ていただいた、本当に老若男女の28名なんです。こういった方々をいかに拾っていくかというのは、大きな大会をするには本当に必要になってこようかと思います。

先ほど私は、マラソンは今健康増進のブームに乗って比較的受け入れやすい、そして登山とは違って身軽にできるということで、敷居は低いとは言っていますけれども、マラソンに参加する人だけにターゲットを絞るのはちょっと狭義だな、狭いなと思うんです。もうちょっと広い意味で、ボランティアスタッフとしての参画もありなんじゃないかと。あとは、イラストを募集することによって、そういった形で自分の芸術性を問うといった大会にするのもいいんじゃないか。いろんな切り口で一般ボランティアの28名というのは、私もすごくうれしく感じた数字でございました。ですから、やるからにはすそ野を広げる、ひいては地域の参加意識が高まって、愛郷心なり、おらがまちのそういった気持ちが醸成されるのではないかと考えております。

13ページをお開きください。ここら辺は報告事項でございまして、いい面も含めた反省点が13ページ、14ページ、15ページと3ページにわたってございます。13ページの真ん中から下に、良かった点があります。10秒ごとのスタートはとても走りやすかったと書いてありますけれども、これはどういう意味かというと、先ほどの陸上競技協会の方々が、けがをするからだめだと言った、逆にそういったご意見を尊重しながら、一斉スタートはやめて10秒ごとのスタートをしたんです。そうすることによっ

て、スタート時の、よくマラソン大会でスタートしたときにわあっとなりますけれども、そういうのを避けて、10秒ごとにスタートすることによって、下り坂に入るときには余りだんご状態にならないような配慮をさせていただいて、それが逆によかったよと。当然10秒ごとにおくらせるわけですから、記録にはちゃんと公平性を持たせるためにパソコンを導入して、ゴールした人のゼッケンの数字を集計して、適正な記録ができるような形をとらせてもらいましたけれども、ここは安全面として一番慎重に対応したところでございます。

その下に、マーチングバンドが非常によかった。これも、要はすそ野を広げる意味で、マラソン大会というスポーツのたけだけしさを出すということで、座間には座間市少女マーチングバンドという全国的に有名なマーチングバンドがございまして、この方々に来ていただいて開会式を彩っていただきました。それで気持ちを鼓舞するようなものをしていただきながら、いよいよ大会に入っていくというしつらえもさせていただいたところで、よかった点だよということを書かせていただきました。

14ページを開いていただいて、本部・救護・受付・荷受係のその他の意見の4番目、佐藤副局長の頑張り（ドッチボール）などを忘れてはならない。これは内輪の話で恐縮なんですけれども、何が言いたいかというと、まず1.8キロの短いコースの大会をやるわけなんですけれども、小学生とかの小さいお子さんが多いので、走った後の閉会式まで2時間ぐらい、時間を持って余ってしまうんですね。安全面を考えたときに、閉会式まで2時間待つのはちょっと大変だということで、子どもたちをあきさせないレクリエーションみたいなことをやって引きとめたというか、芹沢公園にはアスレチックはあるんですけれども、ちょっと離れたところにあるので、そこまでお子さんたちを連れていくのは大変なので、広い広場のところに子どもたちがあきないようなしつらえをさせていただいて、閉会式までがっちり足どめをさせていただいたという工夫もさせていただきました。

あとは、その他読んでいただければ大体言い切れるかなと思うんですけれども、更衣室がなかったとか、そういったものがあったんですけれども、それは今年第2回目にはクリアさせていただきました。これは読んでいただければ大体イメージがわこうかなと思うので、時間の関係で割愛させていただきたいと思います。

また話は苦労話に戻ります。さっき私は、さらりと広告料収入22万円集まったよと言いましたけれども、スポンサー8社にプラス2社の10社。このスポンサー周り、今のこの不況の折を考えると、お金を出してくれる企業というのはなかなか難しいんですね。ですから、このスポンサー回りも非常に1つ大変だったというのがございました。お金集めというのは、これは自治会費もそうですけれども、集めるのは本当に大変ですよ。そういった意味では、お金の悩みというのは、何かやるに当たっては必ずぶつかってくると思います。

臨時駐車場に関しては、僻地にあるものですから電車で来るというのはなかなか難しいんです。座間はバスが余り発達していないので、市内の方であっても、どうしてもお車で来る方が多い。ですから、駐車場を準備させていただいて、座間総合高校だとか栗原中学校を、校長先生とか教頭先生のご協力をいただいて、臨時駐車場として開放していただきました。

あとは、会場の近隣住民の方への告知です。意外とこれはないがしろにしてしまうと本当にやばいです。我々もちゃんとチラシを配って、6月6日にマラソン大会をやるよと告知したにもかかわらず、当日になって、わあっと走って来たり、いざ車を出そうと思ったら出られないとなると、やはり文句は言われてしまうんです。ですから、参加者の安全面もそうですけれども、近隣住民の方々のご理解、ご協力も慎重に対応していかなければいけないのかなと思います。これは回を重ねて認知を受ければ、徐々にこちら辺の声はおさまってくると思うんですけれども、初めの一步はどうしても、通知したと思っても、通知されたほうはいまいちぴんとこないところで、いざ始めてみて、いろいろとクレームが出てくるということでございますから、こちら辺は慎重に対応すべきところかなと思います。

あとは、演出のための根回しとして、先ほど少女マーチングバンドもありましたけれども、ゴールから帰ってきて、おなかもすいた、のども渴いたといったときに、公園ですから何もないんです。そういうところで、座間市観光協会の方がアメリカンドックみたいなものを提供してくれたり、障害者総合福祉施設のアガベセンターというのがあるんですけれども、この施設に入っている方々が、カレーをふだんつくっているんですが、そのカレーをその場所に提供させていただいて、提供といってもお金は取りますけれども、そういった意味で、やはり地域に貢献していただくというか、参加者を迎え入れるしつらえをしながらも、迎え入れる側も坂道マラソンに対する思いをさせていただきたく、そういった方々にもお声がけをさせていただいたところでございます。

そういったいろんな苦労話を前段、後半で申し上げたんですけれども、やはり最終的には大会参加者の募集に気をもみました。なかなか伸びずに、参加者が来ないということは、登録料を取るという名目上、予算が破綻してしまうし、来なければお金の面だけじゃなくて大会としては盛り上がりません。やる側、企画する側、運営する側からしたら、これはいいだろうと思って出したとしても、いざ区民の方からしたら、いやそれはちょっと違うんじゃないとか、やはり琴線に触れなければ、はっきり言って絵にかいたもちというか、ただの自慰行為になってしまうので、いかに大会参加者の募集をするか、イコール、大会に参加していただく区民の方々がどのようなものを求めているのかというのは慎重に対応しなければいけないのかなと思っております。これが、ある意味では一番知恵を絞るところだと思います。

駆け足で話させていただきましたけれども、時間が時間でございます。あとは後ろのほうに写真をつけさせていただいて、このようなチラシ、受付の状況だとか大会の様様をこの写真でざっとご堪能いただきながらイメージしていただければと思います。ただ、本当に短い時間でしたので、私の言葉の中でZAMA坂道マラソンがイメージできたかどうかはわかりませんが、私なりに短い時間でお話しさせていただきました。予定の時間が来てしまったので、とりあえず私からのお話はここで開きにさせていただきたいと思います。

皆さん、お仕事でお疲れの中、ご清聴いただきまして、まことにありがとうございます。

(2) 質疑応答

山下委員長 座間の地域の特性とかマラソン大会の実情を詳しくご説明いただきまして、どうもありがとうございます。宮前区と非常に類似性がございます。私どもとして参考にさせていただきたいと思います。

それでは、このお話の中で、皆さん方、ご質問がありましたらぜひ、殊に活力部会の方、何かございましたらひとつお願いします。

佐藤委員 大変貴重なお話、ありがとうございました。活力部会の部会長をさせていただいています佐藤です。何点かお聞きしたいんですけども、先ほど交通安全協会の方にご相談に行くのに二、三カ月後ではというお話があったんですが、実際にこのマラソンを計画してから実施までの期間と、計画をしてから6ページの案内をつくられたかと思うんですけども、案内をいつ発行して、締め切りが5月になったのかという点。あと、チラシをどのようなところに置いて参加者を募ったのかというところをお聞きしたいと思います。時間があればなんですが、住民への説明の仕方、どのような方法で行ったかを教えていただければと思います。

濱野直前理事長 まず、今ご質問いただきました、企画運営がいつできたかというところですけども、3月ぐらいからです。実際に一斉に広報をしたのは4月ぐらいからでございます。どのようなところにチラシだとかパンフレットを置いたかという点、これは全市、役所を初めとする公共の施設、そして、メンバーの皆さんは商売をやっている方がほとんどなので、商売をやっている店先、友人関係、そういったところにチラシを配布させていただいて、やらせてもらいました。あとは、チラシポスターだけではなくて、今はホームページだとかタウンニュースにも広告媒体として載せさせていただいて、広く周知をさせていただいた次第でございます。

最後におっしゃっていた近隣住民の方への説明というのは、よく墓地をつくるために近隣住民の方々を集めてやるというのがあるかもしれませんが、私たちはそういう形ではなくて、あくまで臨戸というか、実際1戸1戸回ってチラシを、この

ような形でやりますよという通知をただけでございます。

逆にもう1つ今思い出したのは、こうやってボランティアスタッフがたくさん来ていただいたので、そういった方々にご理解いただくために全体会議というのを3回ほどやっております。それは私たちのメンバーだけではなくて、ご協力いただいたスタッフの方々にも広く周知して動きを徹底させるために3回の全体会議をして、それで最後に終わった後反省会を1回やって、このような報告ができたという流れでございます。

大村委員 今おっしゃっていただいたのは、去年の3月に始めて6月にやったということですか。3カ月で、すごい。今年は、2回目はやらなかったんですか。

濱野直前理事長 そのことを改めて。2回目に関しては、当初は3月20日にやる予定だったんです。それはどういうコンセプトかという、森林というか木がたくさんあるところなので、今度は桜に囲まれて第2回はやりましょうという切り口でやろうと思ったんですけれども、皆さんご存じのとおり、震災があったということで結局延期になって、本年は6月5日、また同じような時期に第2回目が行われました。

何で3カ月間になったかという、先ほど冒頭に申し上げた、最初は座間キャンプで何かしたいと思ったので、そこをずっと引っ張ってしまったものですから、そういったところで、どうしてもぎりぎりになってしまった。青年会議所のルールとしては、6月に何かをするよ、丸山君お願いねと頼んでいる以上は、6月に何か形として事業を打たないといけないというルールがあったものですから、本当に急な話でメンバーにはいろいろとご苦労をかけましたけれども、約3カ月の中ですべて準備を整えさせていただいた次第でございます。

区長 1回目のときにけが人はなかったかどうかと、今年2回目をやって、参加者数は増えているのかどうか。

濱野直前理事長 区長様、ありがとうございます。まず、第1回目のけが人に関しては、すり傷が1人いたのと、あと脱水症状というか、前日体調不良で、ゴール近くで脱水症状ぎみになったという人ぐらいで、大きなけが人は出ず、第1回目、そして第2回目も済みました。第2回目に関しては人数は大体同じぐらい、300名強の参加者をいただいて開催できました。ただ、第2回の報告書が、担当者の都合で皆さん方に今日用意できなくて恐縮なんですけれども、大体同じような規模で第2回も開催することができました。

竹田参与 お話ありがとうございました。1点だけご質問させていただきたいと思えます。天候なんです、雨天決行とされていますが、特に2010年は6月の開催、本年度も6月の開催ということで、非常に雨が降りやすい時期でございます、もし雨が降ってしまえば雨天決行になる場合、路面もぬれて滑りやすく事故もふえてしまう懸念があると思えますが、雨天決行でいいのかどうか、そういう検討は図られているか、その点

をお伺いさせていただきたいと思います。

濱野直前理事長 確におっしゃるとおりでございます。参加者のお体のことを考えれば、雨が降って、なおかつ、普通の平地だったらまだしも、坂道ということで今のようなご意見、危惧される場所はあると思いますけれども、天候ばかりはどうしようもないところです。だから、なぜ6月の頭、そして3月20日にしようかといったら、梅雨に入る前の季節だということが1つ。でも、それでも雨が降る可能性はあるわけであって、雨が降ってしまったらしまったで、我々のメンバー、そしてボランティアスタッフが、そこら辺は参加者の裁量というか、良識に任せてやるしかない。マラソンで雨が降って中止をするというのは、参加者の気持ちも考えるとなかなか中止しづらいということで、雨が仮に降ったとしても実行したと思いますし、これからもやるに当たっては、そこら辺は確かに検討課題かもしれませんが、実行して極力人がないような告知はしながら、大会は開催しようかと思っております。

持田委員 先ほどの苦労話の中であった、1回目に余りいい返事をもらえなかった協力をしてほしかった団体、2回目をやるに当たって少し変わってきましたか。まだ2回目だと、いかがでしょうか。

濱野直前理事長 こればかりは、我々青年会は1年ごとに組織が変わってしまうものから、1回目やって、今回2回目を担当した人間がどのように解釈するかということなんですけれども、多分私なんかの姿を見て、そこら辺は——結論から言うと、やっていないんです。そこら辺は本当に認知されたときに、向こうから言ってきたら迎え入れようかなと。これは僕の判断ではできませんよ。ただ、結論から言うと、まだ協力は仰いでいません。

直本副委員長 Tシャツのデザインを募集されて、すごくいいなと思ったんですが、これは1回目に募集されて、また2回目、3回目と、そのたびごとに募集されるような計画なんですか。

濱野直前理事長 本来であれば、坂道マラソンも継続して2回目をやらせてもらったんですけれども、細かい企画だとかしつらえに関しては、その当年の担当者によって趣が変わってくるんですね。逆に同じことを同じように繰り返してしまうと飽きてしまいますし、担当者の思いとか個性が出なくなってしまうので、余り継続して全部背負って、なおかつ自分のやりたいことを背負ってしまうとますます重たくなってしまいますので、本年に関してはTシャツのデザインはやらないで、ステージだとか看板に力を入れて第2回目はやらせていただいております。もうちょっとマンパワーがふえれば、もっとそっちのほうに力を割ければと思うんですけれども、なかなか運営するほうのマンパワーがまだインフラされていないものですから、必要なもの、最重要課題を常につぶしながら、余裕ができたなら自分のやりたいことをテイストとして入れていくという形で、そこら辺は不連続なところがございます。

山下委員長 質問も尽きないところでございますけれども、時間の関係もありますので、この辺で終了させていただきたいと思っております。この区民会議のために宮前区にお越しいただいた濱野様へ、感謝の念を込めまして盛大な拍手をお願いしたいと思います。

2 議 事

山下委員長 それでは、これから本日の議事に入りたいと思っております。よろしく申し上げます。

まず、新しく委員になられた方のご紹介を申し上げます。区の社会福祉協議会からご推薦いただいた田邊委員にかわりまして、大村委員が4月から委員に選任されております。どうぞひとつよろしく申し上げます。

(1) 専門部会からの報告

山下委員長 本日の議事として、両専門部会の報告と意見交換が予定されております。まずは専門部会からの報告を行わせていただきます。

本日は、ごらんのように、後方にスクリーンとプロジェクターが用意されております。手元にも資料が配付されておりますが、パワーポイントを使って説明していただきますので、報告時はスライドをごらんになってください。また、この両委員会の報告後は意見交換が予定されております。時間が許す限り、多くの委員から自分の所属部会についての補足説明や、もう1つの部会に対するコメントなどをいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

では、両専門部会の報告をいただくに当たり、第3期区民会議の基本的なコンセプトを直本副委員長から簡単に振り返っていただきたいと思っております。直本副委員長、よろしくお願ひいたします。

[パワーポイント使用]

直本副委員長 では、最初に第3期の区民会議の基本的なコンセプトについて、私から説明をさせていただきます。スクリーンをごらんいただきたいと思っております。スライドに書いてありますように、まずテーマの絞り込みと選定でございます。

初めに、第3期の区民会議におきましては、宮前区が近郊住宅地であり、川崎都民が多い状況ですとか、地域コミュニティの固定化、高齢化が進んでいるといったような典型的な都市型コミュニティの問題を抱えている地域であるということをとらえまして、コミュニティづくりに宮前区らしさを活かすということが喫緊の課題でないかと考えました。

そのために、宮前区にただ寝泊まりして住んでいるといったような状態から、人としての生活をする暮らす場所に変える、こういったことにあわせまして、地域社会に

参加する人をふやすための仕掛けを検討するということになりました。

スライド2です。では、地域社会への参加を求めるためにはどのようにしたらいいかということでございます。そこに書いてありますように、まず地域社会とのかかわりを示す図でございますが、地域社会に参加を促すためには、図の左側にありますように、ただ宮前区に住んでいるといったような人が大変多いわけですけれども、そういった方々に、いきなり右のほうの階段の一番上に書いてあります地域の担い手ですとか核になってもらうことを求めるのは大変無理だろうということでございますので、まず私たちは、ただ住んでいるという図の左側の人たちを、真ん中の2番目、3番目にありますような地域へ興味を持ってもらう、そして地域に参加してもらうことから始めていって、地域社会へのすそ野を広げていくということが一番大事ではないかと考えました。

そのために、先ほど説明した、住むから暮らすに意識を変化させていくには、どのようにしていったらいいのかということでございます。まず、おもしろいこと、楽しいことも宮前区内にあることに気づいていただき、その気づいたことをもとにしまして参加する。参加することによって、地域との関係を築いていくといったプロセスを考えていくことができるのではないかと考えました。それが暮らしているという状態につながるだろうということに持っていきたいと考えました。

そのために、私たちは2つの部会を立ち上げました。その1つの部会が坂。先ほども、座間青年会議所から大変参考になるお話をいただきましたが、宮前区と切っても切れない坂を取り上げた部会でございます。これは仮称活力づくり部会としております。もう1つが、宮前区にあります産物でございます。この産物は単に農産物にとどまらないで、幅広く産物ということをとらえまして、それを地参知笑、これも後ほど説明があると思いますが、地域に参加する、地域を知る、笑うという地参知笑という部会を立ち上げております。

こういったことから、まちへの興味を引いて、思わず行ってみようかな、参加してみようかなといった気持ちを持ってもらえるような参加づくり、仕掛けづくりをやりたいということで、予算、スケジュールの関係もございますけれども、こういったことを考えながら検討しているところでございます。この2つの部会につきましては、それぞれの部会長さんから後ほど説明があるかと思しますので詳細については省略させていただいて、全体としての説明を以上とさせていただきたいと思っております。

山下委員長 では、ここからは本題である活力づくり部会、地参知笑部会の検討課題に入りたいと思っております。

まず、活力づくり部会について、佐藤部会長から報告をしていただきます。佐藤さん、よろしく申し上げます。

佐藤委員 本日はお忙しい中、ありがとうございます。

活力部会の検討の軸ですが、画面に出ていますように、坂をメインテーマとしたマップを作成しまして、そのマップを活用しまして、坂を活用したイベントの実施、日常的な取り組みの実施、この3つを連携させながら、宮前区に愛着を持ち、地域への参加を促すようなことを目標に議論を進めております。

坂道を活用した取り組みの例ですが、全体会で何回か出てきたんですが、こちらにある目黒区のウォーキングマップが大変人気があるということで、事例として参考にさせていただいています。7つのコースがあるんですけども、実際に事務局1名と委員3名が、それぞれ別々に目黒区を歩きまして報告させていただいています。また、こちらのマップですが、作成したのは目黒区役所の職員の方4名ということで、実際に目黒区役所に行きまして取り組みについていろいろ取材を行い、報告をさせていただきました。

本日来ていただきました座間の坂道マラソンですけれども、今後、イベントや日常的な取り組みについて検討する予定でございますので、本日聞かせていただきました貴重なお話を参考に、今後議論を進めていきたいと思っております。

今年度の検討経過ですが、4月25日、コンセプト、対象とする坂道、コース設定などについて話し合いをしました。第7回が5月24日ですが、4月25日から5月24日の間に、委員の方にご協力いただきまして、宮前区のコースを話し合ったものを歩いていただきまして、どのような感想があったか、注目すべき点はどんなところだったかという報告を行っていただいています。その上で、マップのコンセプトやコースの設定、掲載情報について話をいたしました。

第8回目が7月7日ですが、マップのコンテンツ、コース、目次、主な項目について話し合いを行いました。こちらについてはおおむね合意が得られたと思っております。それから、マップの制作体制についてですが、後ほど詳しく説明するところがございますので、こちらは飛ばさせていただければと思います。

マップのコンセプトですが、座間市の方もおっしゃっていましたが、宮前区はとて多坂道が多いということで、その坂道をマイナスからプラスに変えることと、坂道を歩いてもらうきっかけづくり、健康づくり、坂、自然、のどかさ、手ごろな大きさ、薄さとなっています。こちらは目黒区と重なる部分もあるんですが、宮前区といえば自然とかのどかさ、目黒区とは大きく違うところがありますので、こちらが宮前区の売りとなっております。対象とする坂道ですが、歴史地図には大変多くの坂が書いてあるんですけども、余りにも範囲が大きくなってしまうと、マップのコンセプトの中に手ごろな大きさ薄さというところがございまして、いろいろ話し合ったのですが、18の坂を対象にということで現在進めております。

マップの骨組みですけれども、最初の4月25日の時点では、5つのエリアに分けてそれぞれ委員が回ってきたんですけども、その報告を受けまして、長い距離という

こともございましたので、日常的な取り組みという観点から、6つのエリアに分けて現在進めさせていただいております。

ウォーキングコースの地図と解説ということですが、もちろん坂道を扱いますので、坂道のデータ。歩いていると高低差がとてもわかりづらいんですけども、目黒区のマップにはそこら辺がきちんと載ってまして、そこが大変興味深いということでしたので高低差なども入れてあります。あと、公園、トイレ、休めるところ、こちらはさまざまな世代の方に取り組んでいただくためには、その人のペースでということ、休めるところも載せたいということです。あと、地域の資源ということですが、宮前区には自然とか歴史とか、きれいな景色もありますので、こちらを載せていく。分岐点のポイントですが、目黒区を歩いたときに、分岐点のポイントがとてもわかりづらかった。また宮前区でも、つくる中ではこれが問題になってくるかと思うんですが、分岐点のポイントが非常にわかりづらいので、マップをつくる時にはこちらに重点を置いて気にしていかなければというところ。あと、バス停ですけども、宮前区は駅周辺だけではなく、向ヶ丘地区、野川地区などは駅から離れておりまして、バスの利用が必ず必要となってくるかと思っておりますので、そちらの情報も載せていけたらと考えております。

ウォーキングということなので、健康づくりに関する情報は欠かせないところです。こちらに載っています図は目黒区のマップを使わせていただいているんですけども、区役所内の地域保健福祉課の方々が健康のプロでございますので、こちらをつくる時にはまたご相談させていただきたいと思っております。

関連情報ですが、18の坂のデータをもうちょっと詳しく載せられたらということ。公園体操は、区民会議の第1期の提案で出ております。手ごろな薄さになるので、かなりの情報量は載せられないと思うのですが、準備体操とかいろんな面もありますので、ご案内は載せられたらと思っております。あと、バスの路線図ですが、宮前区を初めて知るとい、宮前区は寝る場所という方も多いので、バスが結構複雑になっていますので、バスの路線図を載せられたらということになっています。スタンプラリーも計画の議論の中に挙がっておりますので、この冊子自体にシールの張りつけコーナーをつけまして、活用してもらえようような取り組みをしてはどうかということと、みやまえぽ一たろうに18の坂道がとても詳しく載っていますので、そちらのご紹介もできたらと議論の中で出ております。

イベントということですが、まだこれからこちらの議論を進めていくという段階ではありますが、今日の座間市のお話を聞きまして、宮前区ではどんなことができるのかということをもた話していかなければというところですが、坂道のウォーキング大会は、コースごとに特徴が変わってくると思うんです。駅周辺は野菜とか歴史のものも少なくなっていますので、テーマとは違ってきますけれども、コースごとの特性を

生かしていくような楽しめるイベントをと考えております。次が坂道のスタンプラリーですが、スタンプですと人員が必ずそこにいなければいけないとか保管方法とかいろいろな問題も出てきますので、コースごとにシールを集めて、何か地参知笑というか、宮前区の特産物をもらえとか、クイズやゲームと組み合わせしていくのもおもしろいのではないかという話が出ています。最後のウォーキング講座ですが、こちらは季節ごとに景色も変わってきますし、日常的な取り組みになってくるかと思えます。こちらの3つの提案を今後進めていきまして、時間は少ないんですけども、さまざまな世代をターゲットにして、宮前区を楽しく知ってもらい取り組みを考えていきたいと思えます。

マップのPR方法ですが、まだこちらも具体化していませんが、今まで出てきた意見がこの4つになっております。

先ほども申し上げたマップの制作体制ということですが、マップのことに集中しますと、なかなかイベントのほうに議論が進みませんし、7月の会議では、区民会議は提言するだけの話で、煮詰めるのはどうかという話もあったんですが、何分冒頭で説明させていただきましてとおりに、イベントと日常的な取り組みは、マップを活用して連携していくというところから考えますと、やっぱり土台づくりは必要となるため、部会の有志を募りまして、ワーキンググループでマップの作成は進めていきたいというふうになっております。23年度までに、マップの情報の収集とか整理をしていきたいと思っているんですけども、どのように進めていけるかという部分もありますので、24年度は委員の者がかわりながら、マップの作成の編集とか少しやりとりができたかと考えています。

あとは、最終的にはとてもすてきなマップをつくってもらいたいということもありますので、専門家の意見を聞きながら活用してつくっていききたいと思えます。

以上が活力部会の報告になります。緊張していて大分早口になってわかりづらい部分もあったと思うんですが、どうもありがとうございました。

山下委員長 佐藤部会長、どうもありがとうございました。報告ごとに意見交換をやることを通常としておりましたけれども、今回は、宮前区らしさ、地域特性をコミュニティづくりに生かすというような両部会共通のことがございますので、引き続いて、地参知笑部会の審議状況について報告を受けたいと思えます。それから後に、両方の結果を見まして意見交換をしたいと思えます。

それでは、持田さんと高橋さんにバトンタッチをしますので、地参知笑部会、よろしくお願ひいたします。

持田委員 それでは、地参知笑部会の説明をさせていただきます。本年度部会長を務めております持田と申します。よろしくお願ひいたします。

まず、コミュニティへの参加を促す冊子ということで、先ほど表紙が出ておりました。

たが、「今、宮前が熱い 住む町から暮らす町へ」ということで、思わず手にとって見たくなるような冊子。冊子といいますと、今たくさん行政のほうからも出ておるんですが、ぜひ見てみたいな、ページを開いてみたいなという冊子をつくろうということで今進めております。

私どもは地参知笑部会ということで、先ほど直本副委員長からもお話があったのですが、通常でいきますと、地域の産物を地域で消費するということで地産地消と言われていますが、私たちは、地域の産物をきっかけに地域に参加して、まちの魅力を知って知り合いをふやし、笑顔あふれる地域社会にしていきたいという意味で地参知笑、地域に参加して、地域を知ってほほ笑むということで地参知笑という部会にさせていただきました。

それでは、地参知笑部会の検討の軸ということで、題材は、宮前区の産物（モノ・場所・活動・人）、仕掛けは、冊子による情報発信となっております。その題材を生かす仕掛けとして、宮前区に愛着を持ってもらうため、名物など宮前区の魅力を紹介するだけでなく、このまちの楽しみ方を提案する冊子を作成し、情報発信を進めていくということです。目標としましては、日ごろ地域にかかわっていない人たちが、冊子を読んだ結果として、地域に一步踏み出し、宮前区に愛着を持ち、地域への参加を促すということを目指して今後も進めてまいりたいと思います。

今年度の検討結果ということで4回部会を開きました。第5回は、宮前区に愛着を持ち、地域への参加を促すための冊子ということで、目的、読者のターゲットなどを検討しました。第6回は、委員が作成した目次案の報告、目次案のまとめを行いました。第7回は、コンテンツのイメージと制作体制を検討いたしました。第8回といたしまして、冊子の制作体制と区の情報戦略を検討いたしました。これが今年度、今までの部会の活動報告であります。

この後ですが、今回のパワーポイントを作成していただき、情報とこの冊子に精通しております高橋委員に引き継いで説明をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

高橋委員 基本的には、お配りしてあるA3の両面印刷をしたものです。これが今回つくろうとしている冊子のイメージになります。そのイメージの内容をもとにお話を進めていきたいと思います。今回つくろうとしている冊子自体は、転入者の方々、毎年7000世帯ぐらいの転入の方がいらっしゃる聞いておりますが、その方々へ配付を考えております。実際、転出されている方もいらっしゃるの、その数は増えたり減ったりですけれども、宮前区は人口が増えていることに間違いはないです。その方と、先ほどから話題になっている川崎都民と呼ばれるの方々、いわゆる情報が届きにくいと言われる世代の方々に届けていきたい、そんな願いを込めています。

こういう冊子をつくろうと思ったきっかけといたしましては、とにかく宮前のこと

を知ってほしい、そして宮前の風を感じてほしい、そしてもう1つは、体験してほしい。体験イコール参加してほしい。具体的に委員からは、みこしが担げる、また、お宮参りができる。明治神宮に行かれたり等々も当然構わないと思いますけれども、近くの神社でもそういうことができるんだということを区民の方に伝えていきたい。さらには、宮前区内、今農産物マップをつくろうという動きもあるようですけれども、そんなこともぜひ載せていきたい、そんな冊子をつくろうという思いでスタートしました。

ところが委員の方からは、同じものがあるんじゃないかというのが大きな意見でした。今、活力部会からも冊子をつくるということであったと思うんですけれども、宮前区を見ると、子育てマップのとことこ、子育てのお母さん方には、私が読んでもおもしろいものがあるし、あるいは宮前のガイドブックもある。じゃ、今回つくろうとしているものは何が違うのかということかというと、宮前区のガイドブックというか、どちらかというパンフレットのイメージ。会社案内ではないですけれども、宮前区を知ってもらおうというイメージです。ですから、厚いものではないです。ガイドブックのダイジェスト版のイメージがありますし、さらには、とことこのような冊子を紹介するような冊子というイメージもあります。転入の方々に、どんと渡すというのは不可能だと思いますので、こんなものも私たちの願いとしては考えております。つまり、区民の人たちとの橋渡しになる、そんな冊子を考えております。

しかしながら、この冊子づくりは非常に難しいものであると思っています。私たちが考えたのは、わくわく感のある表紙。果たしてこの表紙がわくわくするかどうかわかりませんが、表紙のところでは、宮前区出身のアイドルの方に登場してもらおうとか、あるいは、ふろん太くん等々もそうだと思いますし、さらには、宮前区のキャラクター等があれば、そういったことも表紙で紹介していきながらと考えております。

大体のイメージとしては、A4サイズで20ページのものであります。だから、そんなにページ数はない。というのは、一気に読めるものと考えております。発行部数としては1万部。7000の転入者の方々には配る。あと3000部。9万世帯があると聞いておりますので、これは明らかに少ないと思います。そのためには、内容とか編集の仕組みを考えていなくてははいけません。この内容と編集、仕組みが今回の冊子の特徴かなと思っています。

委員の方々に大体目次をつくりました。世代間とか体験できるページ等々、こんなことをイメージしてつくっております。その中で委員の方々からは、写真を載せて顔の見える形にする、手づくり感があるというイメージかもしれません。桜の写真だけ撮っているのではどこの桜かわかりませんので、そこに人が入って初めて桜が通じる。さらに、委員さんからは、宮前区内はかなりエリアごとに特徴がある、こんなこ

とも配慮してほしいという話もありました。

では、参考として、これにも書いたんですけども、世代別レポートということ。世代を分けるというのは非常に乱暴だし難しいのかもしれませんが、こんなイメージを持っております。宮前区に来て6カ月の山本さん、この一家の方々に宮前区をレポートしてもらおう。この方々がレポートしていく中で、委員の方からもあったんですけども、新住民の方々は新しいセンスがあるし、私たちが感じないことを感じることもある。それを身をもって体験された委員の方々がいらっしゃいます。そういったことを考えると、新住民の山本さんがひょっとしたら何か私たちの気づかないものを伝えてくれるんじゃないかと思って、こんなイメージで、世代間で山本さんを例にとったんです。では、この山本さんが、意外と農産物がある、特産があると、そんなことを感じてびっくりされたのが、宮前でイチゴ狩りができることにびっくりした。そんなことをこの紙面上でも伝えていけたらと思っております。

そして、体験できるページは、読み物ではなくて、参加体験できることによって、いわゆるその土地になじみ、つながることができる。いわゆる青山とか渋谷とか、いろんなところのカルチャーセンターに行かれている方もいらっしゃると思います。別に批判はしないですし、否定はしないですけども、宮前市民館の中にはいろんな講座がある、本当にすばらしい講座がある。そんなところに区民の方々が参加して、あるいは参加する気持ちを伝えられれば、そこに参加した方々が自然に地域につながることになるんじゃないか。イメージ的なものかもしれませんが、そのような願い。そして、委員の方々が毎回言うのが、町内会の加入率が低いということで、そんなことも取り上げていけたらと考えております。

そして、今、活力部会からもあったんですけども、ただ単なる読み物にしていたらおもしろくないということで、いろんな仕組みを冊子自体につけたらどうか。スタンプラリーも一例だと思いますし、なぞ解きゲーム等々あるかもしれません。また、今、ZAMA坂道マラソンの方々の話があったように、やはり企業、商店街とのタイアップも必要かなと考えて、話が出ました。そのためには継続的な企画がよいのではないかと思いました。それと今回のゲーム、遊び感覚というと、今やはりスタートしている、委員もかかわっているみやまえカルタを、いかに市民の方々、区民の方々に伝えていくか、この冊子の中にそういうことも取り込めたらどうかという感じがしております。つまり、今回つくろうとしている冊子は、ただ単につくるのではなくて、いわゆる参加型の冊子というイメージが非常に強いということをご理解いただければと思っております。

つまり、繰り返しになりますけれども、冊子の紹介というイメージです。委員からは、僕はドラマチックに感じたんですけども、宮前区のことを伝わっていない、いろいろなものをつくっても伝わっていないという気持ちがある。宮前平駅に宮前区の

電光掲示板をつくるぐらいの気持ちが必要だという意見が出ました。この冊子でそれができるかどうかわかりませんが、仕組みづくりが必要になってくるのではないかと思います。

そして、例えば宮前区の紹介も載せます。そこの中では人口等々じゃなくて、ちょっとおもしろいところで、宮前区民は体脂肪率が川崎市では一番低い区民だとか、ダイエット坂のまちなんて、ひよっとしたらそうかなと思うんですけども——私が言っていると一番説得力がないんですけども、何かあるんじゃないかなと。これは保健所さんでいろいろ持っているかもしれないし、そんなことも区の紹介の中で、市民、区民の方々にちょっと新しい感覚を伝えていければと思っております。

その中で出てくるのが、だれがつくるのかということです。業者がつくるのか、だれがつくるのかというのが最大なる問題で、仕掛けと仕組みづくりが、先ほどから話しているように、今回この冊子をつくる1つのテーマかなと思っております。そのために今考えているのが、みやまえ情報サポーターズ、市民情報を発信するグループづくりが必要かと。この冊子をつくるための実行委員会ではなく、継続できる組織。それは市民館との連携ということで少し調整されているようですけども、そんな動き。このイメージはどういったことか。

時間がないのではしよりますが、いわゆる1つのイメージがあって、各部署から情報がみやまえ情報サポーターズに集まる。そうすると、この冊子づくり、歳時記もこの新しいグループがつくってもいいのかもしれない。そしてその情報を、ぼーたろうさんやタウン誌さん、団体企業に流していく。あとはインターネットという今あるソーシャルメディアを利用する。どういうことか。先ほど話したように、たかが1万しかつくらないわけです。1万しかつくらないものが市民に届くわけがない。そういったことでは、インターネットからダウンロードという仕組み。そうすれば、区民の方々だけではなく、ひよっとしたら宮前に興味を持っている方々に通じる、こんなことが、ダウンロードの仕組み、ソーシャルメディアを利用してできるのではないか。

1つは、みやまえ情報サポーターズという新しい組織が何かきっかけになるんじゃないかというイメージです。そして、市民、こんな柄の悪い市民ばかりではないかもしれないけれども、区民の方々にさまざまな情報が届くということが重要なのではないか。それがメディアミックスということであるのかもしれないけれども、こういったイメージを持っております。

つまり今回の冊子は、コミュニティの参加を促す冊子というイメージであります。それは、宮前区のパンフレット、ガイドブック、冊子を紹介する冊子というイメージである。それから、参加する。ただ単に読み物ではなく、スタンプラリーをつけたり、なぞ解きを入れたり等々をつける。そして、1つはみやまえ情報サポーターズという組織をつくっていく。つまり、コミュニティの参加を促す冊子をつくと同時

に、みやまえ情報サポーターズという組織をつくるイメージです。つまり、つくるものがあって、そのつくる組織づくりで新しい一歩につながるのではないかと、そんなことで今私どもの部会では話を進めているところです。

1分ほど時間が過ぎてしまいました。申しわけないです。終わりにします。

山下委員長 どうもありがとうございました。2つの専門部会での議論内容について、それぞれの部会から報告していただきました。スライドも使用してありましたので、非常にわかりやすかったと思います。

では、これら意見交換に入りたいと思います。恒川副委員長に補足説明と意見交換の進行をお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

恒川副委員長 今、両部会のお話を聞いていて、この宮前区は都内への交通アクセスがよくて、加えて緑もあり、起伏もあり、言うなれば、住むにはすばらしい環境に恵まれた地域であるなど。先ほど直本副委員長からお話がありましており、それによって川崎都民が多い。また、高橋委員からの報告であった、毎年7000世帯の転入また転出があるというのが、この宮前区の特長ではないのかなと思います。

実は、今日来たときに受付の横を見たら、世帯数が今9万2000ちょっと、それから住民の数は、従来21万9000とっていたのですが、22万を超えてそれに152人くらいくっついてきたような気がします。そういう意味では、年々この宮前区の人気というんでしょうか、東横線あるいは田園都市線は人気の路線ですと、よくテレビでも言われているとおり、人口が今後とも増えていくのではないかと考えております。

そういう特性のある宮前区ですが、たしか二、三年前、川崎市で市民の方にアンケートをとったときに、宮前区はどんなまちですかと聞いたならば、よくわからないというのが川崎市7区の中で一番多かったと記憶しています。よくわからないという回答が一番多いということは、住むことには満足しているけれども、暮らすことについては余り知らない、地域について関心を持ってこなかった方が大変多いということであらわしているのではないのかなと。宮前区というのは、住環境としてはすばらしいですから、つい住みかとしている方も多くいて、これから高齢化も進んでいくと思います。また、一方において出生率も高いです。たしか7区の中で2番目だったように思います。20年の全国で見ると、川崎市の出生率が1.09で一番高かったように記憶しています。そういう意味でも、まだまだ若々しい活力のある方が多く住んでいるまちであると考えたらいいのではないのでしょうか。

それらを考えてみますと、ただいまの両部会の報告で、言うなれば、地域資源を生かしていくというような、単に住むだけでなく、暮らす楽しさ、喜びがたくさんあるまちなんだということが何だか再認識できたような、そして宮前区の将来性、発展性に期待を持たせるような報告であったように思います。また、マップだとか冊子の発行。先ほど高橋委員からありましたように、22万の人に情報をどうやって伝えるのか

ということ。この情報発信を両方とも部会で極めて重要視しているということは、現在の宮前区のことを知らない方々にいろんなことを知っていただいて、地域参加のきっかけになれば大変ありがたいことではないのか、両部会に共通する問題ではないのかなと感じました。

また、報告では細かいことまで出ておりませんが、先ほど板橋副区長が資料説明をしたときに、参考関連資料というお話がありました。その2と3に、今両部会で検討している具体的な内容が記載されておりますので、ぜひ目を通していただければ、どういう具体的なことを考えているのかがわかるのではないかと思います。

私が余りしゃべってしまうと時間がオーバーしますので、私の説明はこのくらいにして、両部会の委員の皆さんの意見交換ということで話を進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。両部会の発表、報告について感じたこと、ご質問、ご意見等があれば挙手をしていただいて。

佐藤委員 地参知笑部会でお聞きしたいことが何点かあるんです。パワーポイントでいくと12ページですけれども、継続的な取り組みということになってはいますが、市民館との連携については毎年やっていくようなものなのかというのが1点と、その後の13ページのIT利用というところなんです、こちらは新たにホームページをつくるというイメージなのか、それとも現在ある、ぽーたろうさんとか宮前区のホームページを活用するのということ。それから、参加型の冊子ということなんです、スタンプラリーとかなぞ解きゲーム、こういうイベントごとについては、あくまで情報発信のほうは情報を発信していただけなのか、それともイベントについての仕掛けも情報発信の方々がやっていくというイメージなのか、そこら辺についてお聞きできたらと思うんです。こちらにイベントとかスタンプラリーが載っていますけれども、参加型の冊子ということで何度も繰り返しご説明があったんですが、こちらは実際にどこにやってもらうというイメージがあるのか、それともどこかがやっているのを載せていこうというイメージなのか、そこら辺についてお聞きできたらと思います。

高橋委員 1つは、ホームページ等々のソーシャルメディアということですが、これ自体は市民サポーターズにできればつくっていただきたい、つくっていただければと思っております。既存のぽーたろうについていえば、ぽーたろうが機能していないというのは皆さん感じているところだと思います。ぽーたろう自体が、宮前区内、川崎市内で初めてスタートしたのに機能していない。もちろんこのぽーたろう自体を機能させることも1つかなと思っております。

それと、もう1つは市民館の講座利用ですが、基本的に市民館の講座については、講座を開いた後に自主グループ化だと思います。ただ、この自主グループ化ということについて、私個人の意見ですが、すぐ投げるのではなく、例えば企画課のほうで少し熟成するまで持っていらって、それから市民が独立する。麻生区

の場合だとNPOをつくったり、幸区の場合も市民グループがつくっているのを聞いております。他都市の場合もそうですけれども、できれば市民館の講座として集まっていく。その中で、繰り返しになりますけれども、企画課のほうで熟成するまで窓口を置いていただければというイメージがあります。

さらには、参加型ということですが、実を言うと、これが一番、委員の方々の中でもまだ話をしているところでもあります。あくまでも市民サポーターをつくるというんですけれども、この方々にここまでお願いできるかというのは非常に難しいところがあります。その中で、スタンプラリー等については、いわゆる商店街の助け、商助的な部分が必要かなど。これは長い時間をかける必要があるのかもしれないけれども、商店街の協力であったり、あるいは本当は先ほどあったように青年会議所等と——今回、川崎、高津、宮前のほうでも商工会が新しくできると聞いていますので、そういった方々の協力等々も受けながらやっていく必要があるのかと思います。これは実を言うと課題で、突っ込まれると一番困ったところではあります。

久保委員 前回お休みしたのでとても勉強になりましたというか、そういう形で高橋さんの説明を聞いていました。1点、メディアの利用というか、ぽーたろうとかIT利用なんですけれども、今日、たまたま子育てフェスタの企画委員会をやっていて、若いお母さんといろいろ話した中で、その方は、双子ちゃんに年子の妹さんが生まれたという状態で、本当に家から出られなかった。そんなときに外とのつながりはやっぱりパソコンで、ミクシーだったり、そういうコミュニティのサイトを通して地域とつながったりやっていたという話もあったんです。同年代のお母さんからすると、そういう話は全然受け入れられないというか、どうしてミクシーなんかでコミュニケーションができるのかみたいな話もあるんです。でも、今実際そういう、地域に出る前に引きこもってしまったりとか、仕事をしながら子育てしているお母さんたちは、やっぱりITなんです。そこでコミュニティをつくっているんです。

今日もぽーたろうの話が出たんですが、ぽーたろうで登録しているんだけど、アクセスする人がいないので結局利用していないという方がいるんです。私がそのときに感じたのが、みやまえ情報サポーターズ、若い人とかいろんな人、新しい発想の人を入れて組織化していくことで、もう利用している人がいるのであれば、そういうところで活性化していくことで、実はぽーたろうにもちょっと刺激を与えて連携していくみたいな感じで、すごくいい発想だなと思ったし、じゃ、だれが担い手になるかといったときに、担い手になる人はいっぱいいるんです。今日来たお母さんも、一步その時期を脱して外に出たときに、自分が苦勞したことを伝えたいとか、そういう意識をすごく持っている人で、それは市民館の子フェスタという企画事業で募集して集まってきたお母さんたちなんです。それも市民館だけじゃなくて、今行政のことも支援室とかとつながりながら、いろんなところで声かけして、お母さんたちに、こ

ういう企画委員会がありますよという形でつないでくれているんです。いろんなところでそういう働きかけがあれば、実は参加したいという市民がいっぱいいるというのを最近すごく実感しているの、子育てだけじゃなくて、いろんな世代の中でもそういう人たちもいるんじゃないか。それはただ発掘していないだけで、行政とかいろんなところで声かけしていけば、必ずあらわれるんじゃないのかなと、今日思ったので追加します。

恒川副委員長 活力部会さんに対してのご意見、地参知笑部会の方、何かありませんか。

平井委員 私もなかなか出られていないんですけども、地参知笑部会の中でも、マラソンをして、そこで地産地消のものだけじゃなくて人とかを紹介しようという話も出ていたし、今、坂道マラソンの中にそういう部分がありましたよね。だから、そこはお互いに連携できるんじゃないかなと、聞いていてすごく思ったんです。だから、区民会議の提案として、こっちとこっちというのではなくて、1つのということで、変な言い方なんですけれども、そこでこちらの考えていたことも入れてという1つの形ができればいいかなと。地参知笑部会では、自分たちが動くんじゃないよねというのが何回もあったんですけども、活力部会のほうでは、実際に歩いたりとか動いていらっしゃるの、そういうことをしたほうがいいのかというのが私の中に……。活力部会の動き方と地参知笑部会の動き方、今後提案していくんですけども、今のITのこともそうですが、そこをどのような形で提案していくのかなというのを、もうちょっと検討していくべきかと思いました。

佐藤委員 企画部会というものがございまして、委員長、副委員長、部会長と出ておられて、双方のやりとりも今後やる予定でございまして、今日いただいた意見は、今回の議論の中で、今後イベント等について話し合う機会がございまして、そちらのほうで検討していけたらと思います。

恒川副委員長 藤田さん、一言何かありませんか。

藤田委員 活力部会は今まで坂道を生かしたという意味で、ウォーキングマップづくりの話を進めてきたんですけども、それを道具にして、これからそれをどう使うかというお話で、どうしても発想がちょっと狭くて、ウォーキングのほうに話が偏っていたんですけども、今日の坂道マラソンのお話を聞きますと、わずか3カ月であれだけのことができるわけで、最初の発想では、マラソンなんていうとちょっと難しいので、もっと発想を広げて、いろいろ坂を活用する方法を考えていいのかなと思っています。

高橋委員 分区のとき、麻生区でなべぶた転がしというのを坂道でやったんです。それは弘法の松というのがあって、弘法大師があそこからなべを転がしたというので、坂道を利用してなべぶたを転がして距離を競うというのを毎年やっていて、勝ったところにはチャリティにしてカップの中にちょっとお金を入れてもらうとか、坂道の利用は

知恵を絞ると幾らか出てくるかと思っております。すみません、振られてしまったので。それしか思いつかなくて。

恒川副委員長 ほかに何かご意見とかご質問がなければ、ちょうど時間になってきましたので、意見交換の場をこのあたりで終わらせていただきたいと思います。

それでは、委員長、あとよろしく申し上げます。

4 その他

山下委員長 どうもありがとうございました。今日の意見交換はまたそれぞれの部会に持ち帰りまして議論を深めていきたいと思っております。

予定されていましたがこれで終わりました。ただ、第2期からの繰り越しされた事項がございますので、それぞれについて、まず第2期区民会議からの提言である冒険遊び場についてお知らせをしたいと思っておりますので、久保委員からお願いします。

久保委員 冒険遊び場なんですけれども、震災の関係で予定が三、四カ月おくれまして、とうとうやっと動き始めます。まず、そのお知らせとお願いをさせていただきます。

お知らせなんですけれども、動き出すということで、まず9月11日の日曜日に、区役所大会議室で宮前区冒険遊び場のシンポジウムを行います。ここを皮切りにというか、ここで、地域の冒険遊び場というのはどういうことかを夢パークの所長でもあります西野さんに話していただきながら、子どもの育ちの話ですとか、地域のコミュニティの話をしながらか、あとは実際に冒険遊び場を行っているポレポレさんですとか、こ文でプレーパークをやっている方、今お願いしている最中なんですけれども、そういう方に集まっていただいて、大々的に立ち上げようと思っております。

そのときに、冒険遊び場の支援委員会というのを考えていまして、その募集をします。9月30日に第1回冒険遊び場支援委員会ということで、正式に冒険遊び場支援委員会が立ち上がり、冒険遊び場の事業をサポートする組織がやっと立ち上がるという段取りになっています。そのほかに、実際に冒険遊び場づくり講座というのを10月、11月、市民館でやりまして、大体水曜日の午前中になるんですけども、そこに集まった人たちと一緒に、実際に実践も兼ねたような形になっていまして、講座を受けたらそのままグループができて、冒険遊び場が何個かできればいいなと思っている講座です。それとは別に、10月16日の区民祭で、菅生緑地で冒険遊び場の宣伝も兼ねて、簡単な遊び場、出張遊び場というのを、こちらのほうは冒険遊び場協会からプレーリーダーをお呼びして一緒にやるような形になって動いています。準備会のほうで各団体さんに支援委員会の委員の選出をお願いしていたんですけども、やはり時期が、各団体さんがそれぞれ担当を振り終わった後にそういう依頼を出してしまったりとか、あと、冒険遊び場って何というところで、周知されていない段階で何をやったら

いいのかということで、実は3団体ぐらいしか委員の返事をいただいているんです。

それで、お願いですけれども、再度シンポジウムのご案内と、もう一度冒険遊び場の委員になってくださいというお願いのお手紙を各団体さんに出していますので、特に区民会議に参加していらっしゃる団体さんのほうでちょっと働きかけていただきたいというのと、あと、皆さんいろんな会議に出なくてはいけなくて、人もいなくて大変なことはわかっていますので、もし委員が出せないのであれば、賛同という形でお願いしますというお手紙も今回つけていますので、ぜひ賛同していただきたいと思います。

今、とにかく区民にこの事業を知ってもらうということと、あと、伝えていただきたいんですね。私は支援委員会に残って頑張っていこうと思いますので、実働部隊はちゃんと核になる者が五、六人いまして、サポートなり何なりはやっていきますので、とにかく支援委員になって知ってもらうことと、団体の皆さんに伝えていただくということをやっていただきたいなと思っています。一応3年をめどに頑張っていけば、今、有馬ふるさと公園のプレーパークをやっているポレポレさんに第1号で登録してもらっていますので、3団体、4団体ぐらいできて、そこがネットワーク化すれば、支援委員会のやるようなことも移行していこうと思っていますので、そんな長い間束縛するようなことはないと思います。とにかく、産みの苦しみじゃないですけども、初めがちょっと大変かなというところはあるんですが、3年間ぐらいかけてしっかり浸透させて、立ち上げていきたいと思っていますので、ぜひ皆さん参加してください。

それと、あと団体の推薦だけではなくて、個人でも参加はできますので、シンポジウムのときに個人の委員さんも募集しますので、ぜひ興味がありそうな方にはお声がけしていただいて来てください。シンポジウムに来れば、どんなことなんだというのわかるような形にしたいと思っていますので、ぜひシンポジウムの参加と、委員の選出と、声かけと、よろしくをお願いします。

山下委員長 どうもありがとうございました。これは区民会議の前期の提案でもございますので、ぜひ皆さん、ご協力をお願いしたいと思います。

次に、事務局から、同じく第2期の区民会議の提言でありますみやまえカルタの状況、並びに区民会議の今後のスケジュールについてご説明いただければありがたいと思います。

事務局（有山） 資料の参考5として、みやまえカルタ制作事業がありますが、委員長からありましたとおり、第2期区民会議からの提案ということで、昨年みやまえカルタ制作実行委員会を立ち上げたところでございます。今の状況ですが、この表の真ん中になります。平成22年、23年度の下の地域のカルタの完成、今この辺を取り組んで

おります。昨年、地域団体の協力を得て、読み札、絵札が集まりましたが、読み札のほうはほぼ完成しております。ただ、読み札の検証ということで、これから町内会などに読み札の確認をしていただく予定です。すでに、小学校の校長会で、校長の方々には読み札をお見せしました。困っているのは絵札の方で、読み札で何とかの〇〇坂とあるんですけれども実際はもうないとか、そういうものがあるので、それは想像で書いてもらうような形で進めております。

この地域のカルタの完成ということで、とりあえず、菅生地区と宮前平地区の2つを先行してやっております。これは9月中には制作ということで、そのほかを23年12月までに制作するというのでございます。今年の9月につくるので、とりあえず10月16日の宮前区民祭には地域のカルタが2地区できますので、まだ具体的内容は決まっていないのですが、多分2つのミニカルタ大会をやって、あとはスタンプラリーみたいなもので広報したいと考えております。その後は、12月に全部完成しましたら、来年には7校の中学校のカルタと野川地区のカルタをあわせて、それを1つにまとめて宮前区のカルタを完成させ、来年の区制30周年記念カルタ大会に向けていくと考えております。カルタについては以上でございます。

続いて、参考6の平成22年度宮前区協働推進事業評価一覧表につきましては、後ほどご覧いただきたいと思っております。

最後になりますが、資料5の今後のスケジュールでございます。今回は第5回区民会議でございますが、11月の下旬には区長への提案素案の確認ということで第6回区民会議全体会、1月の下旬から2月の中旬にかけて第7回区民会議、これは区長への提案の確認ということでございます。2月の下旬には、区長への提案をして、区民会議フォーラムへつなげます。部会については、部会の回数は必要に応じて調整していきますが、大体これから3、4回程度開催していく予定でございます。

山下委員長 どうもありがとうございました。説明がございましたように、12月には区民会議の提案の素案、それから、2月には提案をまとめる予定であります。詰めの議論を引き続きやっていきたいと思っております。

本日の議論は大体以上でございますが、区長、何かお話はございませんでしょうか。

区長 今日、それぞれの部会の報告をお聞きしまして、前回から比べたらずいぶん熟度が上がっているなということで、具体的なものが見えてきたかなと思っております。最初にお話があった住むから暮らすということに展開していくのは大変大事なことで、おもしろいこととか楽しいことを見つけて、それをみんなで楽しむというのは本当に重要だと思っております。

私もよく区の職員に言っているのが、少なくとも3つは楽しいことを自分で探さない。それはご飯を食べるのでもいいし、ビールを飲むでも、テレビを見たりでも

いいんですけれども、仕事楽しいというのは一番いいかなと思いますが、なかなか難しい面もあって、区民の皆さんがそういったことを身をもって感じていただければすばらしいのかなと思っております。

今日は、座間の青年会議所の皆さんが来られて、坂道マラソンの話をお伺いしましたが、大変参考になる部分もあったので、今後の議論の中でも生かしていただきたいということと、先ほどあいさつでも言ったように、座間市と、座間の青年会議所と宮前とは末永くつき合っていきましょうということでございますので、そういったところもぜひお願いできればと思います。大変ありがとうございました。

山下委員長 いろいろご提言いただきまして、ありがとうございました。

竹田参与、今日初めてご出席でございますが、何かご感想をひとつお願いしたいと思っております。

竹田参与 本日は大変にお疲れさまでございました。私、初めて参加をさせていただいて、さまざまなご意見をお聞かせいただくことによって、本当に多くを学ばせていただいたと思っております。また、私自身も、非常にこの区民会議につきましては注目させていただいております。地域主権ということは、区民の方々のお力を合わせて地域を活性化させていくことが本当の意味だと考えておるからでございます。区民会議、本当に皆様方がこれからどんどんと展開されて、活発化させていく上で、いろいろな障害が出てくるかもわかりませんが、そうした場合には、ぜひ私、川崎市議会議員に遠慮なくご意見をいただければと思っております。ぜひ皆さんとともに、区をよくしていくこと、改善していくことに尽くしていきたいと思っております。よろしく申し上げます。ありがとうございました。

山下委員長 竹田参与、どうもありがとうございました。いろいろ手を取り合って、ひとつ宮前区の区政推進ということで進めていきたいと考えていますので、よろしくお願いたします。

本日の議事は以上でございます。それでは、進行をお戻ししたいと思いますので、よろしく申し上げます。

5 閉 会

司会（板橋） 委員長、どうもありがとうございました。本日は長い時間、ありがとうございます。これにて、第5回宮前区区民会議全体会を終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

午後8時4分閉会